



あゆみ

青梅市立河辺小学校
令和6年度12月号
青梅市立河辺小学校

学校便り No. 684
令和6年12月3日

参観していただくことの意義 ～「学びの価値」の向上～

早いもので、もう12月。令和6年もあと1か月となりました。季節的には晩秋から冬の時期ですが、急激に冷えこんだ日があったかと思えば、ポカポカ陽気の日が続くなど、例年にも増して寒暖差が大きくなっています。体調維持が難しい気候で、学校でも体調を崩す子や教職員も目に付くようになってきています。皆様、どうぞご自愛ください。

11月は保護者・地域の皆様に、子供たちの努力の成果や頑張っている姿をご覧いただく機会がありました。

9日（土）の音楽会は、平成30年度以来の「合唱をふくむ学年ごとの発表」という形で実施することができました。

音楽科はコロナ禍で最も大きな影響を受けた教科です。令和2年度に全国一斉の臨時休校があつて以来、国や都、市のガイドラインで、歌唱や吹奏楽器（鍵盤ハーモニカやリコーダーなど）の演奏が禁止とされた期間が、断続的に長くありました。そのような中、2年前の令和4年度には「歌唱をせず、リコーダー等の吹奏楽器を行わない、学級ごとの合奏のみ」という条件で音楽会を実施しました。制約のある中、子供たちも教職員も、精一杯の努力を重ねてとても素晴らしい音楽会になりましたが、やはり「学年全体でこそその迫力」や「歌声の響き」がないことに、一抹の寂しさを感じる部分もありました。

今回の音楽会では、学年全体で合唱・合奏を作り上げ、努力を重ねる体験をすることができました。そして、それを保護者・地域の皆様の前で堂々と発表することができました。これは子供たちにとって、大きな「成長の糧」となることと思います。

また、6年生は22日に開催された「青梅市小学校音楽会」に河辺小代表として出演し、福生市民会館の大きな舞台上で、素晴らしい演奏を披露しました。他校の児童・先生方からも大きな拍手や称賛をいただきました。また、他校を代表する高学年の演奏を聴き、他校の高学年の努力も強く感じる、貴重な機会となりました。

30日（土）には道徳授業地区公開講座・学校公開を開催させていただきました。学年も後半に差し掛かり、子供たちの様子も「今の学年になりたて」のころに比べると「ぐっと」成長が感じられる姿が多く見られたことと思います。たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、子供たちの成長ぶりを見ていただき、ありがとうございました。

今回、試みとして3校時を道徳授業地区公開講座講演会として、ネットリテラシーについてのご講演を、e-ネットキャラバン講師の方に行っていただきました。急激な小・中学生のスマートフォン所有率の向上と、それに伴う危険の増大について、具体的にどう対応していくかについてお話していただきました。講演会にも多くの保護者の皆様にご参加いただきました。心より御礼申し上げます。

子供たちは「自分の成長」を実感できると、自己肯定感が向上し、「さらに頑張ろう」という向上心を持つことができます。が、「自分の変化」は自分自身ではなかなか気付きにくいものです。小学生は発達段階として、教師などの周囲の人たち、特に保護者の皆様の価値づけや称賛によって、自身の成長を強く実感することができます。ですから、保護者の皆様に学習活動の様子をご覧いただき、子供たちに前向きな言葉をかけいただくことは「学びの価値」を大きく向上させ、子供の力強い成長に直結します。保護者・地域の皆様が「参観」していただくことは、教育活動に「参加」していただいていることになるということです。

今後も、学校と保護者・地域の皆様が、共に「子供たちが学びの過程で学んだこと」をしっかりと価値づけ、称賛し、子供たちの成長を支え、促していけるよう、手を携えて教育活動を進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。